

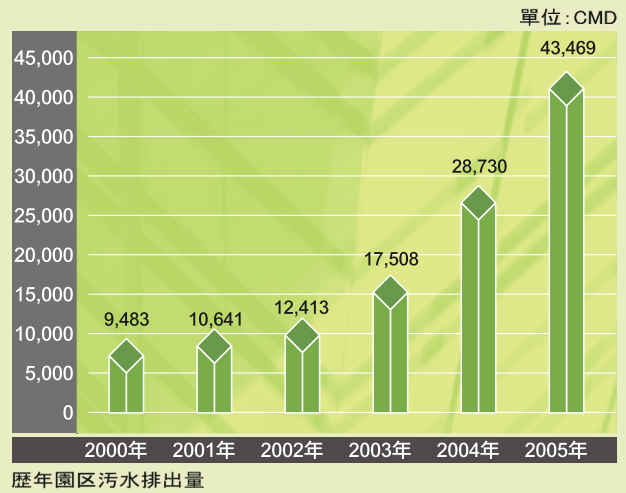
安全と安心の生産環境

労働検査業務「甲等」を取得

本管理局は行政院勞工委員會の委託を受け園区内の労働工業安全衛生の検査と管理を担う。勞工委員會が2005年に行われた業務評価検査においては、本管理局は工業災害を有効に抑制し、事業部門の検査率、罰則処分率、有効な検査率等様々な項目において指標よりも優秀な評価を受け、「甲等」を取得した。

下水道システム「優」の評価取得

2005年末汚水処理量の平均量は43,469CMDとなっている。2004年と比較すると51.3%の増加を記録している。また、汚水下水道処理率は100%に達している。環境保護検査の信憑性を確保するために、環境工業センターは毎年定期的に検査を行っている。本園區は2005年行政院環境保護署全国工業区環境評価で「優」を取得した。



工業安全環境保護宣言に署名

グリーン・シリコンバレーを作り上げていくために2005年10月8日にメーカーと工業安全環境保護宣言に署名をする。「命はかけがいがなく、安全第一、職場災害ゼロ、クリーンな生産、持続可能な環境、南科に汚染なし。」を共同目標として掲げていく。

発揮された洪水防止システム

2005年6月12日から16日にかけて同地域に洪水が起こったが、洪水氾濫期間中、本管理局の緊急応変人員の即時的で迅速な緊急応変システムの起動によって、洪水発生警告情報等が適切に出された。園区内での災害が全くなかったことを受けて、メーカーからの高い信頼を受けることができた。本管理局が企画制定した洪水防止システムの高い信頼性が証明された。



2005年工業安全環境保護月間開幕式兼メーカーとの工業安全環境保護宣言に署名(10月8日)

園区治安の強化に保安警備員の増額、新たに17名増

行政院は2005年9月に51名の警備員を竹科、中科、南科に増員配することを決定し、これを受けて南科では17名の警備員が新たに配属された。2006年1月1日には高雄園区保全警備分隊が結成され、高雄園区の安全性はいっそう高くなった。

適切な茂迪ガス爆発事件の処理

ハイテクノロジー工場全体の対応能力の強化を目指し、南科は園区内のメーカー、消防、警備安全、環境保護、医療等の関連部門全てを統合し防災システムを作り上げた。2003年11月8日に南科緊急対応協力組織を立ち上げ、定期訓練にくわえ、不定期な演習訓練を積み重ねてきた。

2005年11月23日、茂迪会社(Motech Industries)において発生したガス漏れによる爆発火災発生時には、本管理局は迅速に対応協力制度を起動させて対応した。本管理局の戴局長が指揮を執って臨時対応処理センターを立ち上げるとともに、南科の保全警備隊、消防隊、園区安全協力チーム、さらには南部毒物災害対応支援専門家センターなどの協力がなされた。人員の調達と装備が即時に整備され、現場での救助活動を実行された。事件発生後2時間以内には状況を完全に掌握することに成功し、災害による人員や資産の損失を最低限に抑えることができた。本件の適切な対処を通じて各界から強く認められることとなった。本園区の緊急対応協力組織の防災制度とリスク管理は、絶え間ない演習訓練を通じてその効果を余すことなく発揮することができる。



化学毒性物質緊急対応演習訓練(10月25日)

基礎施設更なる向上

行政サービス区の進駐使用

台南園区行政サービス区の面積は11ヘクタールあり、2005年1月より正式に使用開始された。初期に完成されたのは本管理局行政ビル、南科保全警備隊ビル、行政サービスセンタービル、国家高速インターネット及び情報処理センタービルである。これらは園区のメーカーや従業員に商談の場や完備されたサービス提供をする場である。





北側住宅区域と東1東2区開発工事(東2区道路)



第5期標準工場

公共施設の引き上げ

台南園區第2期基地の開発が継続して行われ、2005年には西南区域の開発工事、北側住宅区域や東1東2区の開発工事、安順寮排水工事(第1期)、西北区域境のグリーン化工事等が完成した。これにより、メーカーにさらに完備された水、電力、汚水排出下水道、道路等を提供できるようになった。

建築工事の面では、第5期標準型工場が完成。60ユニットが新設された。進駐メーカーに対し製品生産用に提供されている。

4つの平面駐車場が増設され、合せて1,383個の駐車スペースが増えた。元からある立体駐車場(駐車スペース546個)と共に更に便利な駐車スペースの提供を可能とした。また、運動公園アウトドア公共施設工事が完成。また、健康生活館とコミュニティーセンターのデザインと工事開始が同時に進められており、園区内の生活機能が加速的に改善され完成へと近づいている。

加速進行する高速鉄道振動軽減工事

高速道路振動軽減工事は2004年10月から開始され、2005年末に全体の細部におよぶデザインと施工計画書類審査作業が完成した。工事施工は50%ほどの進捗を見せており、全工程完成は高速鉄道2006年10月運営開始2ヶ月前が予定として見込まれている。

高速鉄道が2005年10月から列車動態測定テストを開始するのに合わせて、本管理局では2005年6月に選出された専門振動測量メーカーと振動減少測量テストを行うこととなった。既に設置された環境振動観測点と本工事で設置した効果測定点によって、高速鉄道の試行運転による振動値を測定・記録し、併せて振動に対して敏感な製品製造メーカーに直接訪問調査を行うなど、メーカー側の耐震に対する要求を汲み取り、園区企業の製造過程に与えるリスク軽減に向けた努力を継続していく。



ハネ型振動減少壁施工状況



耐震構造加強基礎工事施工状況